

機関番号：12603

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008年～2010年

課題番号：20520567

研究課題名（和文） 近世「地域社会」における諸身分集団の複層構造に関する基盤的研究

研究課題名（英文） Basic Research on plural-layer structure of the various identity groups in communities of Early Modern Japan

研究代表者

吉田 ゆり子 (YOSHIDA YURIKO)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50196888

研究成果の概要（和文）：

本研究は、日本近世の地域社会が、百姓や町人にとどまらず、多様な身分的に周縁化された諸社会集団を内包し、複層的に構成されていたことに留意し、こうした周縁身分の視座から地域社会の構造的特質を明らかにした。具体的には、主とし信濃国下伊那地域を素材とし、「彫」（ささら・万歳楽の担い手）や「猿引」という芸能者集団、「非人」や「牢守」などの実態を明らかにし、百姓や町人、武士を含め、諸集団相互の関係を検討した。

研究成果の概要（英文）：

This research revealed structural characteristic of the local community from the view of such a fringe position, noting that incorporates various status of marginalized social groups made up of plural-layer community Japan in early modern times, but not farmers and townspeople. Mainly this was intended for studying such as artists group named “彫” (Sasara) and “猿引” (Saruhiki, Sarumawashi), “非人” (Hinjin) and “牢守” (Roumari, jail guard) of Shimoina areas in Shinano province, including considering relations between various groups; Samurai, farmers and townspeople.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：日本近世史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：差別・地域社会・非人・社会集団・雑種賤民・夙・身分・彫・猿引・牢守・身分的周縁

## 1. 研究開始当初の背景

近世史研究において、身分差別の問題は、主として「えた（かわた）・非人」を中心に進められてきた。たとえば、かわた身分につ

いては畿内・近国を中心に研究が進められ、「畑中敏之『「かわた」と平人』(かもがわ出版、1997年)、藤本清二郎『近世賤民制と地域社会』(清文堂、1997年)などが出された。

また、非人研究は、江戸・大坂の非人組織を解明する塚田孝の一連の研究により格段に進展している。これに対して、「雑種賤民」といわれる「えた・非人」以外の芸能者・宗教者などの被差別民に関しては、網野善彦・黒田俊雄を中心とする中世史の領域で注目されてきたが、近年は近世史においても「身分的周縁」研究の中で、「土農工商」の枠組ではとらえられない多様な諸集団の解明が進んでいる。

このように、「えた・非人」や「雑種賤民」という身分集団の実態はしだいに明らかにされつつあるが、これらが居住する村や町、その構成員である百姓や町人との関係を含めて、地域社会の構造を明らかにする研究はいまだ十分にはなされていない。そうした中で、朝尾直弘が、早くも1980年代に、畿内・近国の町や村が16世紀に共同体を形成する過程で、格差＝身分差別・職業差別を内包する存在となっていたことを指摘した点は重要である（『近世の身分制と賤民』『部落問題研究』68号、1981年、のち『朝尾直弘著作集』第7巻、岩波書店所収）。

また、塚田孝は「地域社会の重層と複合の構造」を指摘し、階層的な重層性のみならず、諸集団相互が複合的に関係しあう地域社会像を解明する必要性を説いている（『身分的周縁と歴史社会の構造』『シリーズ 身分的周縁』6、吉川弘文館、2000年）。こうした指摘があるにも関わらず、卑賤視された人々をも含み込んだ地域社会像はいまだ提示されていないのが現状である。

応募者は、中世末に多様な芸能者・宗教者・舟人の居住する「宿（しゅく）」が、太閤検地を経た近世社会の中でも、百姓の共同体とともに「地域社会」を構成してゆくことを興福寺領南山城地域で確認した（吉田ゆり子「上粕村の村切りと共同体」石井寛治他編『近世・近代の南山城』東京大学出版会、1998年）。しかし、その素材では、地域社会の複層構造論として深めることはできなかった。次いで、南信濃を対象として、「簾」の宗門帳を手がかりに史料収集を行い、万歳楽を担う「簾」集団と、南信濃に固有な芸能者集団である「笠之者」（下伊那郡松尾村居住）について、多くの知見を得ることができた（吉田ゆり子「万歳と春田打ち」『飯田市歴史研究所年報』1号、2003年）。中でも、信濃国下伊那郡阿嶋村では、同村の「簾」と名主家との日常的な関係を、名主家の経営帳簿から明らかにしたが（吉田ゆり子「地域社会と身分的周縁」『部落問題研究』174号、2005年）、「笠之者」については村人との関係についての分析を課題として残した。また、「簾」集団については、中世から近世への移行期における実態、近世を通じて新たな村への定住化の動向、「簾」が本所＝三井寺政所（関蟬丸

神社）に組織化されてゆく過程、明治4（1871）年の諸集団解体後の「簾」の変容など、多くの検討課題が残された。

また、「簾」研究を進めるうちに、「簾」や「笠之者」のように村に住む「猿引（猿牽）」・「癩者」・「舟人」・「伯樂」という小集団の存在が明らかになってきた。また、関東の彈左衛門支配の及んでいない当該地域における賤民組織の解明にとって、飯田城下に居住する「谷川之者」（牢守集団と非人）が鍵となることが判明し、支配領域を超えて下伊那地域全体を対象として諸集団の包括的検討を行う必要性が自覚された。そして、こうした村や町に居住しながら、百姓や町人の共同体から疎外された諸集団を含み込んだ地域社会像を構築すべきことを提起し、その方向性を示すに至った（吉田ゆり子「村と身分的周縁」杉森哲也編『日本の近世』放送大学教育振興会、2007）。

## 2. 研究の目的

本研究は、上記の研究状況と問題関心を背景として、日本近世の地域社会に生きた「簾」（ささら・万歳楽の担い手）や「猿引」という芸能者集団、「癩者」などの社会的弱者や「非人」など、村や町に居住しながら、百姓・町人とは異なる身分に属す諸集団の実態を明らかにし、こうした小身分集団の視点から地域社会を総体的に把握することを目的とした。その際、個々の集団の身分的特質を検討するだけではなく、地域社会が多様な諸集団を内包し差異を抱えて複層的に構成されていたことに留意して、地域社会の構造的性質を明らかにするという方法をとった。そして、ここで得られた知見を、地域住民に還元することにより、現代社会における「差別」の最終的な解消に資することを併せて目指し、地域での講座やシンポジウムでの報告の機会を得よう努めた。

ここでいう「地域社会」とは、村や町、或いはこれとは位相を異にする生産と生活のための共同体とは同義でない。これは、「えた・非人」など諸身分集団と百姓・町人が関係する地域をいう。しかし、こうした人々が百姓・町人と関係していても、従来の百姓や町人の視座に立つ地域社会像では、「えた・非人」や芸能者・宗教者などの諸集団に対する卑賤視と差別の側面しか見えてこない。百姓・町人と「えた・非人」や多様な諸集団相互の関係を解明し、複層的な社会像を描くことにより、初めて「地域社会の全体像」（以下「地域社会」と呼ぶ）が把握されると考える。かかる問題関心にたち、本研究では信濃国下伊那地域を対象とし、村や町に居住しながら、百姓や町人から卑賤視されていた周縁的で小規模な諸集団に注目し、その実態を解明し、百姓・町人の共同体との関係、小集団

相互の関係、支配領主との関係を検証することにより、地域社会の構造を周縁的な諸集団の側から捉え直すことを試みたものである。

### 3. 研究の方法

本研究では、信濃国下伊那地域を対象とし、「鯿」、「猿引」、「笠之者」、「癩者」、「谷川之者」(牢守と非人)、「舟人」などの諸集団を取り上げ、次の5点を中心に研究を進めた。

(1)中世の『非人』に属す遍歴の宗教者・芸能者が定住化する過程と近世初頭の地域社会の実態を、中世—近世移行期の検地帳を始めとする村落関係史料から明らかにする。

(2)諸身分集団の実態、具体的には、職分、内部組織、集団の規律、旦那場、生業・日常生活などを解明する。

(3)諸身分集団相互の関係構造。旦那場争論や縁談など諸集団相互の紛争解決の役割から考察する。

(4)百姓・町人との関係。村役・町役の実態、村や町による諸集団に対する規制の実態、芸能・勸進行為、日常生活上の関係などを検討する。

(5)支配領主との関係。御用=役の実態、「身分」化される過程を明らかにする。

(1)~(5)を踏まえ、近世の身分集団が、一方では権力により職分に応じた「役」を介して編成されていく側面をもつことを前提として、①定住化することになった諸集団が地域社会で生きるために村や町の課す「役」を果たさねばならなかったこと、②それによって村や町にとっても諸段集団を必要な存在と認識することになったこと、③それにも関わらず百姓・町人がこれら諸身分集団を差異化しようとしたのは、農業・林業、商業という生産の局面で共同の利害をもたなかったからであった点を明らかにした。

対象とする諸集団に関する史料は、以下の史料群を中心に用いた。

#### (1)「鯿」

・阿嶋村宇佐美家文書(喬木村歴史民俗資料館所蔵)。

・上河路村関係史料—上河路村区有文書(区長所蔵)、上河路村名主清水家文書(同家所蔵)、開善寺文書(飯田市歴史研究所所蔵写真資料)。飯田藩領内では、近世初期から唯一複数軒の鯿が確認され、古刹開善寺との関係を含め、中世—近世移行期の鯿研究のために史料を調査・収集する。

・立石村鯿(牢守)関係史料 これまで使用してきた齋藤芳男家文書以外に、未公開史料である旧立石村齋藤家文書(東京都在住)の調査・収集を行った。

・本所である関蟬丸神社文書(『関蟬丸神社文書』)。

#### (2)「猿引」

・下市田村名主中村まさ子家文書(同家所蔵、

写真撮影による収集済) 下市田村に内包された15軒(天保期)の猿引集落に関して、18世紀半ばから幕末・明治・大正に至る膨大な日記や年貢関係史料、経営帳簿などから分析した。大島山瑠璃寺文書(飯田市美術博物館所蔵)により、中世以来の猿引と寺社との関係を検討した。

・駒場村上宿・下宿関係史料—駒場村教育委員会所蔵複写資料。

#### (3)「笠之者」

・島田村名主森本信正文書(同家所蔵、飯田市歴史研究所マイクロフィルム所蔵)の寛永14年検地帳(写)、年貢算用帳、人別帳、五人組帳、日記、農事日誌、経営帳簿などを用いて、「笠之者」と村人との関係を検証した。

・島田村八幡社関係史料(下伊那教育会所蔵福島豊寄贈文書)、西宮恵比須神社文書により、「笠之者」の組織・職分に関する考察を深めた。

#### (4)「谷川之者」(牢守と非人)

・元和5年「飯田城之内出来分同おこし共ニ御検地帳」(『長野県史』近世史料編第四卷(二))、元和7年「上飯田村御年貢帳」(『信濃史料』)、その他上飯田村土地台帳(羽場曙友会生産森林組合所蔵)と、17世紀の飯田藩用人中月番日記「飯田御用覚書」(下伊那教育会所蔵)により、飯田城下の谷川に「谷川之者」が形成される過程を検討した。

・飯田藩郡奉行の記録「郡方覚書」(今牧新治家所蔵文書)、町年寄記録(野原家文書・下伊那教育会所蔵)。『旧飯田藩柳田家日記「心覚」』(飯田市美術博物館刊行)などを用いて、飯田城下における「谷川之者」の活動、町人・武家との関係を考察した。

#### (5)「舟人」

・伊久間村(現、喬木村)、川野村・田村村・林村の名主家文書(豊丘村歴史民俗資料館)を調査・収集し、天龍川渡船場に存在する「舟人」と村との関係を検証した。

(6)その他、関連する下伊那地域の史料を、長野県史収集写真資料(長野県歴史観)、飯田市歴史研究所所蔵写真資料、自治体史などを用いた。

### 4. 研究成果

2008年度は、飯田藩における「非人」や身分的周縁の組織を検討するために、飯田城下における「谷川之者」(牢守と非人)、「鯿」、「非人」に関する史料を探索・収集した。さらに、「猿引」と地域社会との関係を明らかにするために、飯田藩領である信濃国下伊那郡下市田村(現、高森町)を素材として名主をつとめた中村まさ子家文書の分析を進めた。以上を総合して、2009年9月7日に大阪市立大学で開催されたシンポジウムにおいて、「信州下伊那地域における身分的周縁—

飯田藩牢守と諸集団との関係―という口頭報告を行った。また、『『觥』一周縁化された人びと』(『アナル』寄稿論文)を脱稿した。本研究により、中世以来在地に居住していた竹細工製作を行う「觥」の人びと(夙)と近世の「觥」・「牢守」・「非人」との連続性を考察し、17世紀後期の飢饉を契機に、飯田藩が御救い小屋を設置し、その管理を任せる過程で「非人」・「牢守」身分が成立する一方で、公的には「非人」身分としては捉えられないものの、「百姓」身分とは区別・差別化された周縁的な集団として、「觥」や「猿引」が存在し続け、多様な人びとの関わりにより、地域社会が構成されていたことを指摘した。

2009年度は、前年度に引き続き、「觥」「笠之者」「谷川之者」「猿牽」など、地域社会において周縁的な位置づけにある諸集団に関する史料発掘と収集につとめた。その際、畿内・近国において近年解明の進んでいる「夙」(宿)の研究成果に学びながら、これまで本研究で明らかにしてきた「觥」「笠之者」「猿牽」の集落を「宿」と位置づけることで、これらの諸集団が地域の寺社に奉仕する集団手であったこと、また中世から近世に移行する段階で、行政的に独立した村として扱われず、行政的には百姓の村に取り込まれてしまったために、地域社会において「差別」的な扱いを余儀なくされるに至ったことなど、新たな知見を得ることができた。その成果は、2008年度の大阪市立大学での口頭報告に加えて、「信州下伊那における身分的周縁―飯田藩「牢守」・「猿牽」と諸集団との関係―」(塚田孝編『身分的周縁の比較史―法と社会の視点から―』清文堂、2010年5月刊行)としてまとめた。

他方、飯田城下における「谷川之者」の実態を明らかにし、藩による掌握過程と藩領域における「牢守」を頂点とする組織を解明するために、上飯田村の検地帳などの収集と分析を行なった。さらに、これらの諸集団と寺社との関係を明らかにするために、上川路村開善寺や大島山村瑠璃寺などの新たな史料収集を開始し、最終年度である2010年度につなげる準備を進めた。また、下市田村名主家(中村まさ子家)と姻戚関係にある下伊那郡部奈村名主部奈家文書の調査・写真撮影による収集・解読を進めた。

2010年度は、最終年度として次の3点に関する研究に重点を置いて研究した。(1)中世から近世への移行の検証。中世の「宿」(夙)が、太閤検地を画期とする村切りによって近世の「村」に組み込まれてゆく過程を検証した。具体的には、「宿」と寺社との関係を検証するために、上川路村の觥と開善寺、市田村の猿牽・觥と瑠璃寺との関係、立石村と立石寺に焦点をあて、史料調査・分析と考察をおこなった。(2)「舟人」の実体を明らかに

するために、下市田村(中村まさ子家文書)、田村村(片桐邦助家文書)、林村(大原俊一家文書)を調査し(豊丘村歴史民俗資料館)、天竜川の渡し舟の船頭仲間に関する考察をおこなった。(3)本研究課題を深め、さらに発展的に考察することのできる諸身分集団として、木地師(林村大原家文書、川野村地正持文書、和合村宮下金善家文書など)と、淡路人形遣いの来村と定住、芸の伝播に関する史料群(上伊那郡古田村唐沢一平家文書など)と、新たな身分的周縁に関する論点を見だし、史料調査・収集と口頭報告をおこなった。

とくに、人形遣いについては、「宿」(散所)に本拠を置く、淡路出身の芸能者の遍歴と定住の歴史を明らかにすることができることから、8月に日仏研究者を飯田市に集めた国際シンポジウムにおいて口頭報告を行い、その成果は『別冊 年報都市史研究』(山川出版社、2011年5月)に掲載された。また、本研究結果の一つとしてまとめた「觥一周縁化された人びと―」はフランスの学術雑誌『アナル』に掲載されることが決定したとの連絡を2011年3月に受けた。

本研究を通して、旧来の百姓身分を中心とした共同体論では、地域社会に生きた人びとの生活や意識の全体を解明することはできず、従来は部落問題として別に扱われてきた「えた・非人」や「雑種賤民」(芸能者・舟人・木地師・觥など多様な人びと)の存在を組み込み、総体として捉えることの重要性を再認識した。今後も信濃国伊那地域を主要な対象とし、さらに木地師や舟人に関する研究を継続・発展させてゆく。また、本研究の研究期間では史料調査が及ばなかった、「觥」の本所である関蟬丸神社関係史料や、「笠之者」と関係する恵比寿社人の本所である西宮神社史料、さらに淡路人形遣い関係史料や、その本貫地である西宮神社史料など、信濃国伊那地域の外に所在する史料群の調査と収集および検討を進めることも課題としたい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

①吉田ゆり子「人形芝居―芸能の担い手と地域社会―」『別冊 年報都市史研究―伝統都市を比較する―』査読無、2011年、108-120ページ。

②吉田ゆり子「幕末維新木における横須賀大瀧遊廓」『年報都市史研究』査読有、17巻、2010年、50-63ページ。

〔学会発表〕(計 2 件)

①吉田ゆり子「人形芝居―芸能の担い手と地

域社会」、国際シンポジウム「伝統都市の周縁」、2010年8月20日、飯田信用金庫2階大会議室（長野県飯田市）

②吉田ゆり子「信州下伊那地域における身分的周縁－飯田藩牢守と諸集団との関係－」、シンポジウム「身分的周縁の比較類型論－近世都市の法と社会」、2008年9月7日、大阪市立大学学術情報総合センター

〔図書〕（計 4 件）

①吉田ゆり子『兵と農の分離』山川出版社、2008年、102ページ。

②吉田ゆり子、他、『伝統都市4分節構造』東京大学出版会、2010年、185-215ページ。

③吉田ゆり子、他、『山里の社会史』山川出版社、2010年、105-143ページ。

④

吉田ゆり子、他、『身分的周縁の比較史－法と社会の視点から－』清文堂、2010年、347-389ページ。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 ゆり子 (YOSHIDA YURIKO) 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  
研究者番号：50196888